

令和4年度 第1回生駒市行政改革推進委員会分科会② 会議録

開催日時 令和4年9月28日(水) 午後2時～午後4時

開催場所 生駒市役所 403・404会議室

出席者

(委員) 高山会長、松岡委員、松山委員

(事務局) 知浦行政経営課長、岡田行政経営課課長補佐、島田行政経営課同係主任

(傍聴者) なし

欠席者

田中委員

1 開会

(事務局) 本日の案件は、「前期行動計画の取組状況の確認について」である。

2 案件

「前期行動計画の取組状況の確認について」

(会長) 担当課が作成した取組状況評価シートをもとに、各取組内容についての総合評価を決定していく。

No.1 事務事業の見直し

(委員) 令和3年度の事務事業の見直し実施事業一覧のうち、廃止事業が4件となっている。そのうち、No.1 政策提案制度について、なぜ廃止したのか。市民からの提案が少なかったからなのか、提案内容が市の意向にそぐわない内容だったからか。また、No.9 電動式生ごみ処理器購入補助についても、どういった理由で廃止したのか。

(事務局) 政策提案制度については、提案数が少なかったことが大きな理由である。電動式生ごみ処理器購入補助については、担当が環境保全課であるため、環境保護という観点からCO2を排出してしまう電動式については廃止し、非電動式に絞ったという経緯がある。

(委員) No.3、4の電柱幕の貸出しを縮小したのは、需要が少なかったからか。また、No.8の創エネ・省エネシステム普及促進事業補助金については、本来であればもっと続けた方が良い施策と思うのだが、縮小した理由は何か。

(事務局) No.3、4の電柱幕は自治会へ貸出しているが、その枚数を1自治会あたり5枚から3枚に減らした。No.8については、エネファームは補助金を交付しなくても普及が期待できるため縮小した。

(委員) No.1の政策提案制度について、この制度以外に市民が政策提案できるようなツールは残っているのか。こういったツールが減っていくと、市民が提案できる機会がなくなってしまうのではないか。

- (事務局) 市民政策提案制度は、市政や地域の課題について、市に提案する制度である。この制度以外にもパブリックコメントやワークショップ等で市民の意見を取り入れる機会はある。
- (委員) そうであるなら、単なる廃止ではなく、その他の事業に統合したという説明にすべきではないか。
- (委員) 個人でも提案できるのか。
- (事務局) はい。市ホームページには意見提出フォームを設けており、そこで個人や団体等から提案が来ている。提案制度はなくなったが、その他のツールで、提案できる手法は残っている。審議を聞いていて、市民へのお知らせの仕方に課題があったように感じた。提案ができないのではなく、テーマを絞ったものであればパブコメがあるし、テーマを絞らないのであれば意見提出フォームで提出することができると説明すれば良かった。
- (委員) 他にもツールがない訳ではないということなので、誤解が生まれないように、廃止ではなく他のツール等と統合していると説明を加えておくべきである。
- (会長) 他の事業で補足できることを明らかにしておく必要がある。評価についてどうか。
- (委員) 市の内部で自主的に取り組んだという点は評価できる。
- (会長) B評価とする。

No.9 公共施設マネジメント推進計画に基づく公共施設の最適化

- (委員) 金鷲の杜倭苑は、県から土地と建物を貸与していた。カラオケの利用は多く、北地区の住民が多数利用していた。RAKU-RAKU はうすでのカラオケ利用者が多く、利用出来なかった人が金鷲の杜へ移ったと聞いている。こういった経緯から金鷲の杜倭苑は残してほしかった。
- (事務局) 県から貸与を受けた段階で築年数が経過しており、維持するには、今後改修に多額の費用がかかることになる。ソフト面では充実していたが、ハード面で老朽化が進行していた。また、本施設の設置目的は、多世代が交わる施設だったが、多世代との交流が浸透していなかったことから事業の見直しも含めて廃止となった。
- (会長) 憩いの場の確保は、高齢者の生きがいつくりには必要である。
- (事務局) 本取組については、公共施設マネジメント推進計画が計画通り推進できているかという観点で評価していただきたい。
- (会長) 他の施設と比較し、金鷲の杜の運営には高額の費用がかかっているのか。
- (事務局) 他施設と比較し、それほど高額という訳ではない。本計画は 10 年間の計画だが、この 10 年ではそれほど多くの施設で廃止という方針が出ているわけではない。老朽化の状況と需要やコストなどのソフト面から評価し、方針を決めている。金鷲の杜倭苑については、老朽化が進行していたことから廃止とした。
- (委員) 廃止する場合のソフト面の代替は検討したのか。
- (事務局) はい。別の公共施設に移管するという手法に加え、民間事業者へ移管することも併せて検討した。

- (会 長) B 評価で良いか。
- (各委員) 了承。
- (会 長) 全ての施設で方針は決まっているのか。
- (事務局) 決まっているが、コロナの影響で市民との話し合いが進んでいない施設もある。ハードとソフトを分けて考えている。ハードは時間が経てば廃止や建替えが必要だが、ソフトは必要があれば、時間が経っても続けていかないといけない。
- (会 長) 公共施設は避難所にもなっているので廃止や移設をスムーズに進めるのは難しい。
- (会 長) B 評価とする。

No.10 公園街路樹維持管理業務の見直し

- (委 員) 自治会と協議しながら進めたところがあるが、どの木を切るのかを決めたということか。
- (事務局) はい。場所によっては、剪定して維持管理していくか、老木化して倒れる危険がある木については伐採してしまうことも含めて、先のことも考えながら検討した。
- (委 員) 市民自治協議会の設立を進めているが、協議会の設立が進めば、協議会で公園の管理をしてもらえるのではないかと考えている。壱分小学校区の市民自治協議会では公園の管理をしている。
- (事務局) 小さな公園の清掃や草刈りなどの管理は自治会でしてもらっている。評価シートに記載している委託料は、大きな木や植え込みの維持管理である。大きな木の管理はチェーンソーや草刈り機を使うので、安全性から自治会への委託は難しい。自治会や協議会の熱意がある地域については、危険が及ばない範囲でお願いをしていきたいと考えている。
- (委 員) 行政側が管理する分と地域が管理する分をすみわけしていけば、予算を削減していけると思う。剪定回数を減らすことで公園が荒れることにならないのか。
- (事務局) 年に何回剪定するかは自治会と相談している。それ以上に剪定してほしいという要望があった場合や危険が及ぶ場合は市職員が対応している。
- (会 長) B 評価で良いか。
- (各委員) 了承。

No.11 市政情報の提供・発信

- (委 員) 非常に良いと思う。コロナ禍により、ホームページで情報を収集するということが日常化しているので、今後この取組は重要になると思う。ただし、今後コロナの収束に伴い、閲覧数が減ってくる可能性があるため、来年度以降、別の評価指標を検討した方が良いのではないかと考えている。
- (会 長) 市の情報をホームページで発信することが常態化しているのは良いことである。
- (委 員) これまでは高齢者はスマートフォンの利用が難しいと言われていたが、今では高齢者でも多くの方がスマートフォンを持っており、閲覧数も増えていくと思う。市民へきちんと PR すれば更に普及していくと思う。
- (会 長) 今後も情報発信を積極的にお願いたい。B 評価で良いか。
- (各委員) 了承。

No.12 多様なツールで情報発信

- (委員) 良い取組だと思う。年齢層によって情報収集の媒体が異なるため、様々な媒体で情報を発信することで、様々な層を取り込むことができる。1つの媒体だけだと偏りが出してしまうので、広い世代を対象にするなら様々な媒体を使うのが良い。
- (委員) どんどん新たな媒体が出てきているので、行政もその流れに乗った方が良い。
- (委員) 媒体に合った見せ方が重要である。TwitterやInstagramは見せ方を工夫しないと見てもらえないので、発信する側に若い世代がいないと十分に推進することが難しいように感じる。
- (会長) B評価で良いか。
- (各委員) 了承。

No.13 市民自治協議会の設立に向けた支援とともに、市民自治協議会や準備会の活動支援

- (委員) 自治基本条例は10年以上前に制定されているにも関わらず、なかなか取組が進んでいない。ホームページに「市民自治協議会の設立にあたっては強制的に提案しているものではありません」と書かれている。そう書いてしまうと設立しなくても良いかという感情になってしまう。何のために基本条例を制定したのかについて、きちんと説明すべきである。
- (事務局) 住民自治を強化していくことが自治基本条例の始まりだった。住民自治を強めることで地域の課題を解決していくことにつながると思う。
- (委員) 「強制ではない」という文言は外した方が良い。
- (会長) 設立するとこんな良いことがあるよといったことを発信した方が良い。ボトムアップ型の自治をつくるのが重要であり課題である。
- (委員) E評価でも良いと思う。20年ぐらい前に自治基本条例の制定が流行り、多くの自治体で条例が制定されたが、条例を制定することが目的となってしまった自治体と実際の取組に繋がった自治体に分かれた。京都府のある自治体では、防災を絡めて、地区ごとに避難経路を確立する取組をしている。まずは身近なテーマを行政から投げかけていくことで協議会設立のきっかけづくりになるだろう。市政全般を分かっている職員が地域に入り、サポートする役割となるのが大切である。
- (事務局) 取組状況評価シートにコロナ禍でワークショップができなかったとある。令和3年度は、少人数・短時間でワークショップを開催したり、市の職員が伴走支援をしたりという手法を検討していたが、コロナが流行していたため自治会から断られたという話だった。
- (委員) コロナが流行しており、今は集まるのが難しいので、行政職員でテーマをつくる取組を行うなど出来ることをすべきである。ずっとワークショップと言い続けても評価が悪くなるだけなので、実際に取り組んでいる内容をきちんと実績に記載しておくべきである。コロナが収束したら、行動に移せば良いと思う。
- (会長) 市役所側の取組をしっかりと記載しておくべきである。D評価として、評価の根拠を補足的に書いてほしい。

No.14 コーディネート機能の充実による活躍の場の提供

- (委員) マッチングに取り組んだ効果を担当課は把握しているのか。
- (事務局) 数字では聞いていないが、前年度よりは良くなっていると聞いている。市民活動団体がコロナにより2年ぐらい活動できていないので、団体の運営基盤が弱っている。弱体化させない取組として基盤強化の講座とマッチングをしている。そういった効果が出て令和2年度より成果がでてきたのだと考えられる。
- (委員) コロナの影響を直接的に受ける取組だが、行政が持続的に取り組んでいる内容で評価をしてはどうか。昨年より今年は増えている。コロナの影響が読めない中、行政が団体を持続させるためにどういった取組をしているかが大事である。
- (委員) コロナが収束していくと件数は自然と増えていくだろう。活動できないときに各団体が勉強し、次活動するときのために知識を増やしていったら良いと思う。団体へのアドバイス等をしていくことで団体の気持ちが離れないように繋ぎとめることが大事である。コロナの影響で何も出来ないでは、団体の気持ちが離れてしまう。
- (会長) 数値目標だけで見ると、D評価になってしまう。令和3年度については、コロナ禍の中で行政がどう工夫をしたかという点を評価するのが良い。D評価とし、コロナ禍で数値目標は下回ったが、行政が様々な取組を行ったことは評価する。
- (各委員) 了承

No.15 総合型地域スポーツクラブの推進・支援

- (委員) コロナ禍でもよく頑張っていると思う。B評価で良いと思う。
- (委員) スポーツクラブの設立数は増えにくいのか。
- (事務局) 準備クラブが1クラブあるが、それがスポーツクラブに移行するためのフォローアップはしている。今後は、中学校の部活動の外部化の動きと連携していくことも考えられる。
- (委員) 体育館やグラウンドが多数あるので、いろんな人に使ってもらいたい。
- (会長) B評価で良いか。
- (各委員) 了承。

No.16 民間事業者等との協創の活性化に向けた対話窓口の設置

- (会長) 担当課が変わったのか。
- (事務局) はい、昨年度の組織改編に伴い所管替えになった。
- (委員) 素朴な質問だが、担当課が変わることで、事業の取り組み方や扱いは変わらないのか。きちんと事業を理解して取り組まれているのか。
- (事務局) 行政が事業を実施するにあたっては、実施要綱やガイドラインを作成するので、部署が変わっても目的等は変わらない。ただ、内容はどんどんブラッシュアップしていくので、やり方を変えていることはある。
- (委員) どの担当課が取り組んでも、実施できる構造にしておくべきである。
- (会長) C評価で良いか。

(各委員) 了承。

No.17 市民がまちづくりに参画できる機会提供の拡充と公益活動団体と地域との連携

(事務局) 補足だが、イコマニアについては市民が企画運営するイベントがメインである。令和3年度はコロナ禍により、計画はしていたがイベントの実施を自粛した事例もあると聞いている。

(委員) 事業数にイコマニアも含まれるのか。

(事務局) はい。50周年イベント等の取組も含まれる。対面での実施が難しいことからオンライン等で実施にこぎつけたものもある。

(委員) そういった取組を記載してはどうか。コロナで集まれない中、255事業まで持ち上げられたことは評価が高い。推進している実績を記載した方が良いのではないか。対面で実施できることを目指して、途切れないような取組をしているのであれば、その取組をしっかりと記載すべきである。

(委員) 目標数値は達成していないが、コロナ禍でこういった取組をしたということがきちんと明記されておれば、Dにする必要はないと思う。

(会長) コロナ禍でも努力した点を評価し、C評価とする。

No.18 本と通したコミュニティづくり、市民との協働事業の実施

(委員) コロナ禍でもきちんとイベントを実施し、数値が伸びている。

(委員) 修理ボランティアもよく活動されている。朝活としてオープン前の図書館を利用し、歌や体操等をしているが、図書館員はとても協力的で熱意を感じる。

(会長) この調子で頑張ってもらいたい。A評価とする。

No.20 都市ブランド形成

(会長) IKOMA SUN FESTA の内容の検討は実施したのか。

(事務局) はい。IKOMA SUN FESTA は令和2年度にいこまの魅力創造課から商工観光課へ所管替えした。当初の目的は、生駒の魅力体験する場であったが、事務事業の見直しにおいて、生駒の魅力体験する場としてイベントを実施することに効果があるのかという意見書が提出され、庁内で検討を行った。その結果、令和2年度に事業者のPRにつなげることを目的に物販を行うというコンセプトに変えた経緯がある。しかし、結局コロナにより、令和2年度も令和3年度もイベント自体ができなかった。

(委員) 事業者支援はコロナ禍でも実施しているのか。

(事務局) はい。市役所の駐車場にキッチンカーを呼んだり、さきめしいこまを実施したりしている。

(会長) good cycle ikoma の閲覧数が伸びているのは、情報発信ツールの多様化も影響しているのか。

(事務局) good cycle ikoma についても facebook や Instagram を活用しているが、開設当初から導入しているので影響は大きくないと思う。令和2年度にホームページをリニューアルした際に、サイト内の回遊率を上げる取組をしている。good cycle ikoma の担

当も同じ広報広聴課なので、その取組を反映した結果もあると思う。

(委員) 回遊率を上げるのは良いが、ダイレクトに見たいページになかなか辿り着けないことがある。時間があるときは良いが、時間がないときはダイレクトにアクセスしたい。そういった点も工夫してもらえれば、もっと良いものになる。

(会長) 評価は担当課評価の通りとする。

No. 28 財政指標の目標値の設定・管理

(会長) 政府の財政状況からすれば、今後はおそらく緊縮財政になるのではないか。

(委員) 市税はどの部分で増加したのか。

(事務局) 増加したという訳ではなく、予算編成時、市税が7%減るといふ国の見込みであったため、それをもとに予算を立てたが、予想外に市税が減らず、更に交付税がたくさん入ってきたことから実質収支が31億円という結果になった。また、コロナ関係の業務が増えたため、入札も増え、入札をすると執行残が出るので、それが積もり積もって実質収支が増えたことも要因として考えられる

(会長) 毎年、中期財政計画は立てているのか。

(事務局) はい、毎年度見直しをかけている。

(会長) A評価で良いか。

(各委員) 了承。

(会長) 全体を通して意見はあるか。

(各委員) なし

閉 会